令和５年度　五所川原小学校

学校経営の方針と重点

○　沿革史より

◆帽章（校章）　明治４２年「雪＝六花」に「誠」の文字をいれた児童帽子徽章に制定す。

◆校訓　帽章（校章）の六花片（雪）に、校訓として制定した６徳目を配当して、「誠のことば」として下のようにまとめられている。

誠のことば

きまりを守って	（規律）
一生けんめいにつとめ	（勤勉）
物を大切にし　むだをなくし	（倹約）
正しいことは進んでやり	（勇気）
いつでも礼儀を忘れずに	（礼儀）
みんなと仲よく助けあい	（親切）
明るい世界をつくりましょう	

１　教育目標

「　思いやりのある子　進んで学習する子　健康でたくましい子　」

２　努力目標

（徳）相手の気持ちを考え、大切にし合う子

（知）進んで考え、表現する子

（体）めあてをもち、健康で安全な生活をする子

３　学校目標：令和５年度１年間の目標

「　じぶんも輝き、みんなも輝く五小の子　」

- 人間関係づくりを基盤として、じぶんがよいだけではなく、みんな（他者）にとってもよいと思われる行動ができるように。**【じぶんもよく、みんなもよく】**
- よいことなのか、悪いことなのかを自分で考え、判断し、行動できるように。
- 規範意識を身に着け、**人にめいわくをかけず、主体的に正しい行動**ができるように。
- 今、何をするべきなのかを自分で考え、進んで行動できるように。
- 相手のことを思い、相手のことを考えて、**思いやりのある言動**ができるように。
- 自分のことを大切に思い、他者のことも大切に思い、共に活動できるように。
- 当たり前のことを、当たり前にできるように。
- あきらめず、物事に最後まで主体的に取り組むことができるように。

４　めざす姿

（１）学校像

「みんなでつくる　みんなの五小」を最上位目標に、温かさと活気に満ちた学校

①　人を大切にし、互いに認め合い、支え合い、仲間と楽しく過ごせる学校

②　力いっぱい物事に取り組み、自分の力をせいいっぱい発揮できる学校

③　保護者・地域社会と連携し、共に子供を育てる学校

（２）子ども像

「じぶんも輝き、みんなも輝く五小の子」を最上位目標に、思いやりの心をもち、規範意識を身に着け、自らの考え判断し進んで行動する子

①　他者を思いやる行動をし、物事を最後までやり遂げる子

②　規範意識を身に着け、正しいこと、当たり前のことを進んで行う子

③　健康や安全に心がけ、みんなのためにすすんではたらく子

（３）教職員像

「常に学び続け、変化に対応できる教職員」を最上位目標に、高い人権意識に基づき、子供の成長を信じ、学校を心から愛し、地域との関わりを大切にする教職員

①　**児童理解に努め**、一人一人のよさや可能性を見つけて伸ばし、よく聴き、親身に考え、対話し、小さな成長を喜ぶ教職員

②　新しい時代に生きる子供を育てるという気概をもち（使命感・責任感・誇り）、自己研鑽に努める教職員

③　お互いに尊敬し合うとともに、同僚と保護者と地域の方々と一丸となって子供を育てる教職員

５　学校経営の基本方針

将来の自立に向けた、確実な基礎づくり
～みんなでつくる　みんなの五小～

五所川原小学校の子供たちを育てるのは、五所川原小学校の父母と教職員、そして地域の方々である。子供は、大人を見て育つ。家庭での父母の姿を、地域での大人の姿を、学校での教職員の姿を見て、まさに人間として育つのである。

学校は子供のためにあり、個々の子供の「よさ」と「可能性」を引き出し、将来のよき社会人として自立に向けた支援を行う場である。また、学校は、一人一人の子供が自己有用感、自己肯定感、自己存在感をもち、一人の人間として「たくましく**生きていく力**」を育成することが使命である。

多様性が尊重される社会では、学校だけでは子供を育てることはできない。教職員の力、保護者の力、地域の力はもちろん、子供自身が成長しようとする力、学びに向かおうとする力も不可欠である。お互いが学び、学び合うこと、支え、支え合うことがなくてはならない。このことから、「将来の自立に向けた、確実な基礎づくり～みんなでつくる　みん

なの五小～」を学校経営の基本方針とした。
　五所川原小学校をつくるのは、「みんな」である。そこで今年度も**「地域密着型教育！」**を進めていきたい。学習支援ボランティアを積極的に呼びかけていきましょう。

　教師の力量次第で子供は変わり、学校が変わるということがよく言われるが、自己研鑽に努めながらも、教師の価値観を押し付けることなく、確かな児童理解に基づき、目の前の子供に向き合うことを大切にし、教師一人の力量ではなく、学年で、ブロックで、分掌で、学校全体で取り組むことが必要である。
　決めつけた指導ではなく、力任せの指導ではなく、実態を把握した上で児童一人一人に応じた指導を継続していくことが大事である。出来て当たり前、〇年生だからできるはず…ということを無くさないといけない。褒めること、価値づけること基本として小さな成長を認める教師でありたい。

　また、学校目標達成のために、一人一人が分掌のリーダーとフォロワーになり、日々の指導と学校目標達成のための重点指導事項及び具体的取組を往復し、「それが子供たちにとってどうなのか」と、常に課題意識をもって取り組む、協働を大切にした明るく活気に満ちた教師集団でありたい。

　さらに、教師は不易と流行を見極めながらも、学習指導要領の理念を理解した上で、新たなことに積極的にチャレンジする教師でありたい。多様な考えを出し合い、前例にとらわれることなく、教育活動を大胆に見直していく時期を迎えている。
　五所川原小学校で学ぶ一人一人の子供が、人と心の交流をし、確かな学力を身に付け、心身共に健康な生活を送ることができるように、子供相互、子供と教師、保護者（地域）と教師、保護者相互、教師相互の信頼関係と連帯感の構築に努めるとともに、全教職員、一丸となり**【チーム五小】**で教育目標の具現化を図っていきたい。

６　学校経営の重点【重点事項】

（１）相手の気持ちを考え、大切にし合う子の育成　～徳育～

- 学校における全ての教育活動の基盤は学級経営であり、生徒指導の充実に努める。
- 子供の話に耳を傾け、心の結びつき（受容と共感）を基調とした児童理解に努める。
- 教師も子供も、子供の人格を大切にした言葉遣いと行動をする。
- 相手の立場になって考え、人を大切にする心を育む。
- 子どもが主人公となる場や他者と関わり合う場を意図的に設定し、互いに認め合うことで仲間意識を育て、自己有用感、自己存在感、自己効力感をもたせる。
- 教師自らが範を示し、社会性（あいさつ、態度、言葉遣い）と規範意識を育てる。
- 問題行動の早期発見、早期対応に努め、いじめのない学校づくりに励む。

【重点事項】

①　相手を思いやる心の育成　…　人を大切にする心の育成、いじめの未然防止
②　規範意識の向上　…　正しいことをする態度の育成
③　社会性の育成　…　場に応じた態度の育成

（２）進んで考え表現する子の育成　～知育～

・　子ども自身の内発的な学習意欲を引き出す学習目標、課題、学習活動の工夫に努め、主体的・対話的で深い学びの実現を目指す。一斉指導からの脱却が鍵！

・「わかりましたか？」と問いかけるのではなく、「分からないことはどこですか？」と問いかける教師に。

・　学力向上「六花プラン」の継続的、組織的取組をする。【学習基盤】

・　特別な教育的支援を必要とする児童が学びやすい環境及び支援体制を整える。

【重点事項】

①　学習規律の定着　　…「聞き方名人」「話し方名人」の指導

②　根拠をもとに表現する子の育成　…　理由を付けて話せるように工夫

③　基礎・基本の確実な定着　…　基礎学力の定着と個に応じた指導

④　読み聞かせ活動の実施　　…　読み聞かせ活動の充実、本と向き合う時間の確保

（３）めあてをもち、健康で安全な生活をする子の育成　～体育～

・　進んで働く場を意図的に設定し、共通理解の下で、一人一人の子供が役割を果たすことで、自己有用感、自己存在感をもたせる。

・　家庭と連携し、健康的な生活習慣を実践する態度を養う。【生活基盤】

・　記録会等で把握した子供の実態をもとに、教科体育の中で体力づくりを図る。

・　休み時間などに友達と運動することを奨励し、運動を好きになり、進んで運動に親しむ意欲の向上を図る。

・　あきらめずに**最後まで**物事に取り組む態度を育てる。

【重点事項】

①　めあてをもって体力つくりをする態度の育成　…　年間を通した体力つくり

②　基本的生活習慣の定着…睡眠時間の確保、食育指導、歯みがき指導、感染症予防

③　安全判断ができる子の育成　…　児童主体となった安全教育の推進

（４）創立１５０周年の歴史と伝統を生かし、地域と共にある信頼される学校づくり

・　父母と教師で子供を育てるために、保護者、地域への対応は丁寧に迅速に行う。

・　報告・連絡・相談・確認を確実に実践する。また、記憶よりも記録を大切にする。

・　家庭や地域への情報発信を積極的に行うとともに、ＰＴＡ活動に積極的にかかわり協力体制を確立する。

・　地域行事への参加を奨励し、地域社会との連携及び協働に努める。

・　幼保小連携及び小中連携により小１プロブレム、中１ギャップの解消を図る。

・　地域密着型教育を推進する。